

愛知県知多半島の先端近くにある美浜町。名古屋駅から

分。伊勢湾と三河湾の2つの海に面し、海苔の養殖やハウスみかん栽培などが盛んな緑豊かな町だ。

6月30日。町の西部地域の拠点である

名鉄知多奥田駅前に、「美浜町運動公園陸上競技場・交流広場」がオープンした。

では、スポーツジャーナリストの増田明美さんによるトークセッションや、公園に隣接する日本福祉大学と県内の愛知工業大学のラグビー部門モンストレーションマッチも開催。

町内、町外から多くの人が集まり、新たな施設の誕生を祝った。

美浜町産業建設部都市整備課都市計画係の鈴木太一係長に、概要を聞いた。

「運動公園全体の敷地面積は約8万3000平方メートル。今回オープ

ンした陸上競技場と交流広場を皮切

りで、スポーツを軸に、多様な人々が集い活気あふれる輝くまちをつくる

愛知県知多郡美浜町
都市公園受託事業 美浜町運動公園
2017年●平成29年～

「スポーツまちづくり推進室」を設立。協働して事業を進めていま

す。まずは、運動公園整備をきっかけに町内

の方々の運動への興味を喚起。高齢者の方はフレイル予防や介護予防、ゆくゆくは医療費の減少へつなげるのが目標です。2年前からは小学校2、3年生を対象に、英語を使った体育授業や課外活動を実施。昨年度は、保育園でも運動教室を始めました。さらには陸上競技場整備の波及効果として、県内外の大学などの合宿や大会誘致を進めています。それにより地元消費の大、将来的には企業誘致や産業振興により、若者人口の確保までつなげなければと考えています」と、美浜町

駅からすぐに作られた競技場。施設も充実し、これから活動が期待される。



volume 138

変わる日本の暮らしと「まち」

阿部民子 text by Tamiko Abe
illustration by Shigeyuki Sakata

のどかな農業と観光のまちに新設された、最新型の陸上競技場。その経緯を、美浜町産業建設部都市整備課の平野和紀課長が説明する。

「美浜町は昭和30～40年代には海水浴場のメッカとしてにぎわい、昭和50年には知多奥田駅が開業、昭和58年には日本福祉大学が移転し

て、その後、発展を遂げてきました。ところがバブルが弾けたことで、当時進んでいた駅前の土地区画整理

事業を見直すことに。そこで浮上したのが、日本福祉大学と連携した運動公園づくり、スポーツを核にした

「まちづくりでした」

海や山に恵まれた美浜町では、もともとトライアスロンなどの大会も開催。スポーツになじみがあったこ

ともあり、町は大きく方向を転換。駅前に大きな運動公園をつくること

で人の流れを変え、民間の投資を促して町を活性化するべく、2017年から事業をスタートさせた。

「2022年には、日本福祉大学と

教育委員会教育部生涯学習課運動公園係の前田健二係長は、まちの未来像を描く。

○スポーツと防災の拠点に

まちの将来と期待を担う大プロジェクト。その心強い伴走者が、UR都市機構だ。URは、これまで静岡県の藤枝総合運動公園や千葉県の千葉市蘇我スポーツ公園など、大きな運動公園の整備を担当してきた。美浜町とは30年ほど前に、「美浜町総合公園」の整備を担当してからの縁だ。その信頼関係から、「町役場では経験のない大事業だけに、まちづくりのプロであるURさんにお願いすることになった」と平野課長が話す。

UR中部支社の竹内誠担当課長は、「2017年に事業を受託して以来、まちに寄り添いながら進めていま

す。この公園は、防災公園としても大きな役割を担っています。いざと

いうときは観光客なども含めた1万人の方々の一時避難場所にもなるよう、国の補助の対象となる防災対策メニューなども活用しながら整備を進めています」と話す。

工事には、この土地ならではの苦労もあるという。地盤が細かい砂を含むため、工事による土砂が海へ流れ込むと特産品である海苔の養殖に影響が出てしまう。そのため、養殖期間中は、月に1回水質調査を行い、慎重に工事を進めている。

「公園全体としては、完成部分はまだ半分にも届かない程度。今後も、残り部分の整備に引き続き尽力し、将来的には公園をどう使っていくかといつたソフト支援も行っていく。そして、町の人々の健康に役立ち、人が集まり、親しめる空間にできれば」と竹内。

2023年には、美浜町はスポーツ庁から「スポーツまち！長官表彰」を受賞。全国を先導する優良な「スポーツ・健康まちづくり」に取り組もうとしている

。この公園は、防災公園として、多くの町として、国その後ろ盾も得た。オリンピックで大いに盛り上がり、多くの人達がつたスポーツ熱を追い風に、美浜町運動公園の工事は続く。

街に、ルネッサンス

UR都市機構

[企画制作]新潮社

